

今月のテーマ 「対象者の行動パターンから、センサーを選定！」

これまでに、センサーの特長や設置場所などをご紹介しましたが、今回は、利用者の「癖」や「行動」に合ったセンサーの選定や設置方法をご紹介いたします。身近にこんな利用者がいらっしゃいませんか？

■コールマットを避けてしまう方には…



コールマットがなぜか働かないと思っていると、**センサーを避けたり、センサーをベッドの下に隠したり**していました。気づかれない対策をしなくちゃ！



方法1 『ベッドコール』を使用する



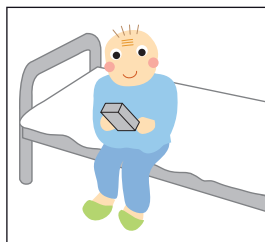
ベッドセンサーを使えば、センサーがシーツの下に隠れるので、気づかれる心配がありません！

方法2 コールマットの上に衝撃吸収マットを敷く



衝撃吸収マットを敷くことで、センサーが目立たず転倒時の影響が軽減でき、二重の転倒対策として有効です！

■送信器や中継BOXの電源を切る方には…



ベッド周りの送信器や中継BOXが気に入り、**ボタンやスイッチを触ったり、電源を切ったり**して困っています。



方法1 目立たない所に設置する



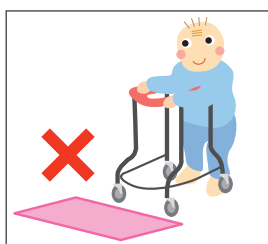
ベッド周りの機材を対象者の目に触れない位置に設置してください。ケーブルの長さが足りない場合は、各種延長コードがあります。

方法2 『ハイパーマット』を使用する



ハイパーマットは送信器内蔵タイプなので、外部にスイッチ類がありません。

■歩行器や車いすを使って移動する方には…



センサーの上を歩行器や車いす**が通過しても大丈夫？**



方法1 『赤外線コール』を使用する



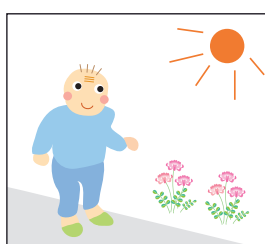
歩行器車輪の通過や回転による内部電極の傷みで故障する可能性があります。赤外線コールなら、安心して運用できます！

方法2 『ベッドコール』を使用する



ベッドコールを使えば、早い段階で利用者の動きが把握できます！

■目を離れたすぎにすぐ外に出てしまう方には…



認知症の方ですが、リビングに座っていたはずが、**いつの間にか外へ出ていた事**がありました。



方法1 『座・コール』を使用する



利用者の立ち上がりをお知らせする「座・コール」があります。
⇒詳しくは前号 vol.60 をご覧ください！

方法2 『赤外線コール』を出入口に設置



出入口に赤外線コールを設置すると、人の出入りが把握できます！
もちろん、車いすでの通過もキャッチ！

